

平成30年度 学校評価総括表

奈良県立郡山高等学校

教育目標	幅広い知識と教養を身につけ、主体的に学ぶ態度と、正しい判断力と強い意志を養い自律的な生活態度を育成する。豊かな人間性や社会連帯の精神、国際社会に生きる資質を養うなど、民主的な社会の創造と発展に貢献できる豊かな人間性と創造性をそなえた人材の育成を目指す。		総合評価
運営方針	「誠実・剛毅・雄大」の校訓の精神と文武両道を奨励する校風のもと、個々の生徒の自己実現に向けて、確かな学力の定着を図る指導、自主的な学習態度や自律的な生活態度を高める指導の徹底を図る。		
○昨年度の成果と課題	本年度重点目標	具体的目標	B
すべての教科において、生徒の満足度は高く、アクティブラーニングの取り入れ方も、適切であった。さらに、学ぶ意欲をかき立てる授業の展開が必要である。	キャリア教育を充実させ、生徒の進路実現を図る。	進路に関する情報提供等を充実させ、自己を客観的に見つめさせることにより、早期より具体的な将来の進路(第一志望)を考えさせる。	
学習面、部活動など、すべての活動において学舎統合による成果を出せるように取り組んでいきたい。	生徒の意欲や思考を引き出す授業を工夫し、主体的・探求的な学びを提供する。	第1学年で基礎・基本を固めるとともに、予・復習を習慣化させる。時間を有効に使う学習を定着させる。また、校内研究授業や自己研修等を通して指導者の授業力を向上させる。	
	学習と部活動の両立を図れる指導をめざす。	学習においては集中力を養い、目標を貫徹し継続して取り組む強い意志力を育てる。部活動においては、教科担当と部活動顧問が常に連携し、効率的な活動となるための工夫を図る。	
	豊かな人間性と創造性の育成に努める。	学校行事、生徒会活動、HR活動及び読書活動等の精選と充実を図る。	
	社会の一員として自立するため、シティズンシップ教育を推進する。	基本的な生活習慣を確立させ、校内外の生活全般にわたってマナーと、整理整頓の習慣を身に付けさせる。また、学校行事や地域への積極的な貢献を推進する。	

評価項目	具体的目標 (評価小目標)	具体的方策	評価指標	中間期(9月)		年度末(3月)		学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策	
				自己評価	進捗状況	自己評価	成果と課題(評価結果の分析)		改善方策等
学習指導	観点別評価の導入に向けた授業の充実	観点別評価の導入を図るため、単元ごとや授業ごとの評価方法を研究する。	昨年度と比較して観点別評価をした機会が増えたと答えた職員の割合が70%以上ならA、50%以上ならB、20%以上ならC、20%未満ならDとする。	—	観点別評価の導入に向け、授業での指導も含めた観点別評価について各教科に研究をお願いしている。なお、教員アンケート実施後に自己評価を行う予定である。	A	『今年度、昨年度と比較して観点別評価をした機会が増えたとお思いますか』という質問に対して「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた教員はあわせて72.4%であり、大多数の教員は昨年度より観点別評価をした機会が増えたと考えられる。しかし、「そう思う」と積極的な回答をした教員は8.6%にとどまっており、まだ十分とはいえない。	観点別評価についてはまだ課題が多いが、校内で評価についての環境を整えるとともに、将来的には教務内規の見直しを検討しなければならない。新しい学習指導要領の実施における観点別評価の実施に向けての仕組み作りを進めたい。	良好である。 新指導要領への適切な対応を期待する。
進路指導	進路目標の明確化と向上心の維持	授業への取り組みに加えて、進路指導部主催の進学講習・夏期講習等への自主的、積極的な参加を促す。	各講習において、参加申込をした生徒の出席率が80%以上ならA、60%以上ならB、40%以上ならC、40%未満ならDとする。	B	1学期の3年生進路講習平均出席率は65.3%であった。部活動の最後の大会があり、目標としていた80%を超えることができなかったが、どの講座にも熱心に取り組む姿は見受けられた。今後も継続して努力させていきたい。	B	学年別の進路講習出席率は3年生70.0%、2年生83.9%、1年生97.9%、3学年全体で79.2%であった。1年生は初めて全員受講の形をとった。早い時期からの学習への意識付けがねらいであった。また3年生・2年生とも自己の目標に向かって学習に取り組めた。	3年生は通年で継続した講習を引き続き実施。2年生・1年生は夏期休業以降、基礎学力を身に付けるためにも放課後、あるいは長期休業中の講習への参加を促し、意識付けをさせたい。	良好である。 新しい入試制度への対応と適切な情報発信を期待する。  (関連意見)「文武両道」に努力する生徒の姿は素晴らしいが、究極的に求めていくと、教員も生徒もしんどくなる。自分に合った目標の設定や結果とともに努力の経過に価値を見出し、満足感や達成感につなげていく指導の観点も検討されたい。
		各学年のそれぞれの段階で、将来を見据えて自ら努力目標を設定し、最後までやり抜いていく力を培う。	生徒実態調査において、「自己の目標に対してよく努力できた」と答えた生徒の割合が80%以上ならA、60%以上ならB、40%以上ならC、40%未満ならDとする。	—	生徒実態調査の結果集計後に検討。	C	3年生では目標を立てて計画的に努力できた割合が81%であるのに対し、2年生・1年生では逆に8割以上の生徒が計画性をあまりもたないまま学習している実態であった。入学時より少しでも早い段階で動機付けをし、継続した努力を促す指導を検討していきたい。	高大接続改革に伴う大学入試制度の改訂の時期を迎え、自己の将来の目標を考え、それを実現していくには何が必要かを考えさせ、定期考査、模擬テスト等の活用方法や様々な進路情報を発信していくことが必要である。	
生徒指導	規範意識、公共心の向上	学校生活のあらゆる場面で挨拶の励行を促す。	挨拶に関するアンケートを生活委員に実施し、「本校生が教員や来校者に対し、自ら積極的に挨拶をしており、友人同士においても心地よく挨拶を交わしていると思う」と答えた生徒の割合が80%以上ならA、70%以上ならB、60%以上ならC、60%未満ならDとする。	—	アンケート調査は年度終盤、生活委員の生徒を対象に行う予定のため、まだ評価できない。毎週の挨拶運動や、登下校時の通学路指導の際の感触と、本年度の評価指標の「自ら積極的に」との文言から鑑みて、A評価へは今一歩足りないように感じる。	A	全学年の生活委員の生徒を対象としたアンケート結果で、「挨拶を自ら積極的に行っている」に肯定的な意見が94%であった。毎朝の教員による立哨指導や毎週の生活委員による挨拶運動で、主体的に挨拶を行う意識が根付き始めていることが背景にあると分析する。	今年度はA評価を得たが、今後も継続的に挨拶の励行を促し、さらに受け手が礼儀よさを感じさせられる心地よい挨拶を行えるよう指導を継続したい。	良好である。  (関連意見)シチズンシップ教育という目標が各分掌のどの項目、どんな評価指標と関連するのか、分かるよう工夫されたい。
特別活動	自主的・自発的な活動を通じた、豊かな人間性の育成	学校行事、HR活動、部活動に積極的に取り組み、活力ある生活を実践できる環境を整える。学舎統合による利点を活かすことによって、生徒の活動の視野を広げる。	生徒実態調査により、「学校行事やHR活動、部活動を自主的・自発的にすすんで実践することができた」と答えた生徒の割合が80%以上ならA、60%以上ならB、45%以上ならC、45%未満ならDとする。	—	1学期、球技大会、文化祭等の諸活動に積極的に取り組む姿が見られた。生徒実態調査実施後に評価を行う予定である。	A	生徒実態調査で学校行事やHR活動、部活動を自主的・自発的にすすんで実践することができたと回答した生徒が各学年90%を超えている。学校行事に関しては天候不順もあってとらえ方に不安があったが、生徒たちは与えられた環境の中で自主的・自発的に活力ある生活を送ることができている。	生徒の活力を生かしつつ、臨機応変に対応できる学校行事の運営方法を再考する必要がある。	良好である。
人権教育	豊かな人間性の育成を目指した、人権HR活動の充実	自他の人権を尊重する資質と能力を身に付けさせるため、アクティブラーニングにさらに工夫を加えて、主体的な人権学習を実施する。	全学年で各学期とも、昨年度の指導案にさらに工夫を加えたアクティブラーニングを取り入れることができていればA、2つの学年ができていればB、1つの学年のみではC、どの学年もできていない場合はDとする。	—	1学期の人権教育ホームルームでは、3学年とも、昨年度の指導案にさらに工夫を加え、アクティブラーニングを取り入れた学習を実施することができた。	A	人権教育ホームルームでは、3学年とも、生徒の実態や今日的課題を踏まえてさらに工夫を加えた指導案を作成し、そのなかでアクティブラーニングを取り入れることができた。アクティブラーニングの手法は定着しており、生徒の理解を促進して成果があがっている。	予定した目標はほぼ達成できた。来年度以降も継続するとともに、さらに内容の充実に努めたい。	良好である。

評価項目	具体的目標 (評価小目標)	具体的方策	評価指標	中間期（9月）		年度末（3月）			
				自己評価	進捗状況	自己評価	成果と課題（評価結果の分析）	改善方策等	学校関係者評価（結果・分析）及び改善方策
教育相談	予防的、開発的な教育相談活動の充実	教育相談活動の充実に役立てられる情報を提供するため、教員向け広報紙「相談室より」を毎月発行する。	教員アンケートにおいて、「『相談室より』を日頃の教育活動の実践に役立てることができた」と答えた教員の割合が60%以上ならA、40%以上ならB、30%以上ならC、30%未満ならDとする。	—	これまでのところ、「相談室より」を毎月順調に発行している。教員アンケート実施後に評価を行う予定である。	A	教員アンケートの結果、「『相談室より』を日頃の教育活動の実践に役立てることができた」と答えた教員（そう思う、どちらかといえばそう思うという回答の合計）の割合が82%という結果であった。	職員会議の資料として毎回継続して発行することで、教育相談に関する情報として役立ててもらいやすくなったのではないかと判断している。さらに、有用な記事の選択等、内容の充実に努めていきたい。	良好である。
保健体育	生涯を通じて健康な生活が実践できる力の育成	「保健だより」を活用しながら、怪我・疾病予防など、健康への関心を高める。	生徒実態調査において、「保健だより」を毎月読んで、「怪我・疾病予防などに生かされた」と答えた生徒の割合が60%以上ならA、40%以上ならB、20%以上ならC、20%未満ならDとする。	—	生徒実態調査がまだ、実施されていないので自己評価は、まだだせない状況だが、「保健だより」は現在、4号まで発行している。	D	「毎月読んで怪我や疾病などの予防に生かされた」と回答した生徒は8.1%で前年度よりも微増したが、「気になる内容を生かした」を加えると48.5%で、前年度より約4ポイント下がった。疾病の治療勧告を受けても治療していないなど健康についての意識が低下してきている。自らの健康をどのように保つのかを考えさせ実践させる指導に取り組む必要がある。	配布の仕方を工夫する。配布するだけでなく、保健の授業での展開もしていく必要があると感じる。機会あるごとに健康についての意識の向上に努める。	評価指標の検討とともに、引き続き、努力を期待する。
	たくましい体力の育成、活動の充実	体育に関する行事「新体力テスト・体育大会」等を実施し、体力の向上および活動の充実を目指す。	新体力テストの成績と生徒実態調査における「新体力テストの結果を受けて体力の向上に努力している」「体育行事に積極的に参加した」など、自己の体力向上への積極度を総合的に勘案して、80%以上ならA、70%以上ならB、50%以上ならC、50%未満ならDとする。	—	生徒実態調査がまだ、実施されていないので、自己評価は、まだだせない状況だが、新体力テストの結果を見ると、総合70点以上の生徒が昨年度より2年生・3年生では、増加している。この結果が、アンケートにどう出るか楽しみである。	C	新体力テストの結果について上位層は向上しているが全体的には低下の傾向がある。テストの結果を受けて「努力している」生徒は32.9%(D)、体育行事に積極的に「参加した」生徒は86.9%(A)でともに昨年度より微減している。体育大会が中止になったことも関係していると推測されるが、授業で体力向上のトレーニングを自分たちで考えさせる指導をしてきただけに、その必要性を実感させられなかったのは残念である。	各自の健康について考える機会をもち、今年度以上に、体力向上の意義・必要性を理解させながら取り組む必要がある。	評価指標の検討とともに、引き続き努力を期待する。
文化図書	豊かな人間性の育成を目指した読書活動の推進	読書HR、ビブリオバトル、図書館だより「共慶」、ポスター掲示などをととして、読書活動への意欲を高める。	読書HR後のアンケート及び生徒実態調査において、いろいろな読書啓発活動から、「読みたい本が見つかった」と答えた生徒の割合が70%以上ならA、60%以上ならB、50%以上ならC、50%以下ならDとする。	—	「共慶」は各月担当の図書委員が読書啓発できるように工夫をし、順次発行中である。読書HR「ビブリオバトル」に向け、研修を計画中である。生徒実態調査実施後、評価をする予定である。	A	「読みたい本が見つかった」と答えた生徒の割合は、「共慶」では59.2%、ビブリオバトルでは92.0%、全体で75.6%であった。ビブリオバトルは、普段出会えない本に出会えたと好評であるが、「共慶」は昨年度より2ポイント増加はしたが、なお60%を下回っており、課題である。	「共慶」作成にあたり、興味を引かせる見出しや、発行する季節に応じた本、話題の本、時事の本等、誰もが興味をもつ本を紹介するなど、工夫が必要である。	読書活動に係る文部科学大臣表彰について、好評価を得た。
環境整備	生徒の自主的な活動による学校美化の向上	美化委員により、生徒が共同利用する場所の清掃状況を定期的に点検し、問題がある場所の担当クラスの美化委員がそのクラス全体に改善を呼びかけ、清掃を強化する。	生徒実態調査において、「清掃当番のとき、清掃活動にすすんで取り組んでいる」と答えた生徒の割合が50%以上ならA、30%以上ならB、20%以上ならC、20%未満ならDとする。	—	各クラスの美化委員が、「すすんで掃除・整理整頓」というポスターを作成・掲示し、クラス全員に呼びかけ積極性を高めようとしている。また、大掃除ごとに清掃状況を点検し、問題があれば改善している。廊下やトイレなどの共同利用部分の掃除も行き届いている箇所が多い。	B	掃除に「すすんで取り組んでいる」生徒は、38.0%で、全体の昨年比が+3.8ポイントであり、向上している。特に1年生の意識が高く、41.1%である。2年生も1年生のときより+5.3ポイント、3年生も2年生のときより+3.6ポイントであり、「すすんで」と「おおむね」を合わせると98%となり、良い傾向だが、「すすんで」が増えるよう工夫をしていきたい。	掃除推進の美化委員作成ポスターを作成・掲示するとともに、美化委員からの呼びかけも強化したい。また、美化委員による大掃除ごとの清掃状況点検・改善を継続するとともに、できるだけ事前点検もし、汚れている箇所を掃除を強化したい。さらに共同部分の掃除の出来具合にも注意したい。	良好である。
広報・情報	ホームページ、連絡メール、学校案内、広報誌等、情報発信の充実	ホームページ、メールシステムを活用し、行事の周知により、カウンセリングの日程、保護者向けの学校行事等の情報を広く周知させる。	保護者アンケートにおいて「ホームページや連絡メールで配信される情報が役に立っている」と答えた保護者の割合が60%以上ならA、50%以上ならB、40%以上ならC、40%未満はDとする。	B	ホームページや連絡メールで配信される情報は、役に立っていますかという項目では、あてはまるが59.5%なのでBである。広報活動により参加された育友会の社会見学では、満足度の高いAといえる。ホームページの閲覧については、昨年より7.2%上がったがさらに工夫が必要である。	B	保護者アンケートによる満足度59.5%から、ホームページや連絡メールはある程度認知されていると考えられる。情報収集ツールのメインは、スマートフォンになった。利用増に向けてはスマートフォンからの閲覧を想定して写真は、縦向きに並べる工夫を考えたい。また、閲覧回数の増加には、クラブ関係の情報の充実が良いと考える。	本年3月下旬で旧ホームページは閉じる。新ホームページCMSの職員への講習を実施し、コンテンツの更新のスピードを速めるとともに情報発信の回数を増やす。	引き続き、適切な情報発信を期待する。
事務・管理	城内学舎閉鎖に伴う光熱水費増加の抑制	今年度から全学年が本校で学ぶことで光熱水費の使用料増加が見込まれる。生徒・教職員の健康管理を優先しながら、電気器具、水道等の無駄な使用がないかを管理し、環境への配慮からも使用料増加を最小限に抑える。	平成29年度の使用料と比較して、15%以内の増加ならA、15～20%以内ならB、20～25%以内ならC、25%以上ならDとする。	A	7月末の昨年度同月比97%で、適切な管理と教職員の努力により光熱水費は増加していない。しかし今夏の猛暑により8月以降は増加傾向にあるので、今後も適切な管理と節減に努めていきたい。	A	光熱水費は12月末の昨年度同月比101.2%で適切な管理と教職員の努力により夏の猛暑にもかかわらず微増にとどまっている。1月～3月の寒波での影響はありえるが、予算内での執行は可能と考えている。	今後も生徒と教職員の健康は第一と考えているが、生徒・教職員の協力を得て節電、節水に努めていきたい。	夏、冬の盛りに生徒が体調を崩すことのないよう空調の使用に配慮されたい。

平成30年度 学校評価計画表

奈良県立郡山高等学校

<p>教育目標</p>	<p>幅広い知識と教養を身につけ、主体的に学ぶ態度と、正しい判断力と強い意志を養い自律的な生活態度を育成する。豊かな人間性や社会連帯の精神、国際社会に生きる資質を養うなど、民主的な社会の創造と発展に貢献できる豊かな人間性と創造性をそなえた人材の育成を目指す。</p>	
<p>運営方針</p>	<p>「誠実・剛毅・雄大」の校訓の精神と文武両道を奨励する校風のもと、個々の生徒の自己実現に向けて、確かな学力の定着を図る指導、自主的な学習態度や自律的な生活態度を高める指導の徹底を図る。</p>	
<p>○昨年度の成果と課題</p>	<p>本年度重点目標</p>	<p>具 体 的 目 標</p>
<p>すべての教科において、生徒の満足度は高く、アクティブラーニングの取り入れ方も、適切であった。さらに、学ぶ意欲をかき立てる授業の展開が必要である。学習面、部活動など、すべての活動において学舎統合による成果を出せるように取り組んでいきたい。</p>	<p>キャリア教育を充実させ、生徒の進路実現を図る。</p>	<p>進路に関する情報提供等を充実させ、自己を客観的に見つめさせることにより、早期より具体的な将来の進路(第一志望)を考えさせる。</p>
	<p>生徒の意欲や思考を引き出す授業を工夫し、主体的・探求的な学びを提供する。</p>	<p>第1学年で基礎・基本を固めるとともに、予・復習を習慣化させる。時間を有効に使う学習を定着させる。また、校内研究授業や自己研修等を通して指導者の授業力を向上させる。</p>
	<p>学習と部活動の両立が図れる指導をめざす。</p>	<p>学習においては集中力を養い、目標を貫徹し継続して取り組む強い意志力を育てる。部活動においては、教科担当と部活動顧問が常に連携し、効率的な活動となるための工夫を図る。</p>
	<p>豊かな人間性と創造性の育成に努める。</p>	<p>学校行事、生徒会活動、HR活動及び読書活動等の精選と充実を図る。</p>
	<p>社会の一員として自立するため、シティズンシップ教育を推進する。</p>	<p>基本的な生活習慣を確立させ、校内外の生活全般にわたってマナーと、整理整頓の習慣を身に付けさせる。また、学校行事や地域への積極的な貢献を推進する。</p>